

創立 40 周年記念

調布市民合唱団 第23回定期演奏会



すぎとほったものがほしい
すぎとほったものが 好き

...

あの
すぎとほったものたちがほしい
いろんないろの

吉原幸子 「幼年連祷 憧れ」より

2018年9月1日(土) 14:00 開演
府中の森芸術劇場ウィーンホール

1 幼年連祷

新実徳英 作曲 吉原幸子作詩
ピアノ：清水良枝

I 花
II 不眠
III 憧れ
IV 熱
V 喪失

2 調布市民合唱団の愛唱歌集 アカペラ・アラカルト

せんせい	きょうたに たかし 詩 三善 晃 作曲
ピアノ	作詩者不明 三善 晃 作曲
この道	北原白州 詩 山田耕筰 曲 増田順平 編曲
烏の番雀の番	野口雨情 詩 山田耕筰 曲 増田順平 編曲
さびしいカシの木	やなせ たかし 詩 木下牧子 作曲
ロマンチストの豚	やなせ たかし 詩 木下牧子 作曲
荒城の月	土井晩翠 詩 滝廉太郎 曲 林 光 編曲
お菓子と娘	西條八十 詩 橋本国彦 曲 林 光 編曲
死んだ男の残したものは	武満 徹 作詩・作曲
翼	谷川俊太郎 詩 武満 徹 作曲

休憩

3 REQUIEM

JOHN RUTTER ジョン・ラター 作曲

ソプラノ	：平井香織	I	Requiem aeternam	永遠のやすらぎを与えたまえ
フルート	：吉岡アカリ	II	Out of the deep	深き淵より
オーボエ	：佐竹正史	III	Pie Jesu	慈しみ深いイエス
打楽器	：加藤恭子	IV	Sanctus	聖なるかな
打楽器	：村居 勲	V	Agnus Dei	神の子羊
ハーブ	：宮原真弓	VI	The Lord is my shepherd	主はわたしの羊飼い
チェロ	：高麗正史	VII	Lux aeterna	永遠の光で照らしたまえ
オルガン	：中野ひかり			



指揮 佐藤 宏

国立音楽大学作曲科卒業。1986年「ノアの方舟」でデビュー。その後活動拠点を藤原歌劇団に移し、国内外の著名な指揮者のアシスタント及びバンドを数多く担当する。新国立劇場では開場記念公演「アイダ」以降多くの公演に合唱指揮及び副指揮として関わり、2002年には「なりゆき泥棒」を、2004年には日本オペラ団体連盟公演の指揮を担当する。近年では東京二期会の合唱指揮者として多くの公演、コンサートに関わっている。藤原歌劇団団員。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部講師。国立音楽大学大学院講師。



ピアノ 清水 良枝

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。ピアノを井口基成・馬島瑞枝・森安芳樹各氏、アンサンブルを岩崎淑・安田謙一郎他に師事。各種リサイタルの伴奏、合唱ピアニスト、オーケストラ鍵盤楽器奏者として国内外での様々なコンサート・イベントに出演。著名演奏家との共演も数多く、各共演者からの信頼は厚い。共演 CD 多数。芥川也寸志・高田三郎・中田喜直・平井康三郎他 著名作曲家からも絶賛される。プロ合唱団において 教育用 CD 録音や文化庁等による学校公演にも積極的に取り組んでいる。親しみやすい音楽会創りにも励み 精力的に活動している。



ヴォイストレーナー・ソプラノ 平井 香織

国立音楽大学卒業、同大学院修了。オペラでは「魔笛」パミーナ、夜の女王、「フィガロの結婚」伯爵夫人、「カルメン」ミカエラ、「夕鶴」つう等を演じる。殊に新国立劇場公演には数多く参加しており、「ラインの黄金」「ワルキューレ」「神々の黄昏」「カルメン」「こうもり」「エレクトラ」「影のない女」「ピーター・グライムズ」「死の都」など、信頼も厚い。そのほか、「第九」「レクイエム」「メサイア」「グローリア」「スタバト・マテル」等の数多くの宗教曲ソリストとしても活躍。二期会会員。国立音楽大学講師。二期会オペラ研修所講師。



英語発音指導・ソプラノ 西尾 友香理

アメリカ・ニュージャージー州生まれ。高校のときカナダに留学。国立音楽大学声楽専修卒業、同大学院声楽専攻オペラコース修了、最優秀賞受賞。二期会オペラ研修所第58期マスタークラスを総代修了、最優秀賞、川崎静子賞受賞。新国立劇場オペラ研修所18期修了。ANAスカラシップでイタリアとドイツにて研修を受ける。オペラでは『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルデイリージ等で出演。澤畑恵美氏に師事。二期会会員。9月10日新国立劇場にて魔笛レクチャーコンサートに出演予定。



フルート 吉岡 アカリ

京都市立堀川高校音楽科を経て東京芸大入学。在学中より内外のコンサートに多数出演、安宅賞を受賞する。読売新人演奏会出演。卒業と同時に東京フィルハーモニー交響楽団に入団。首席奏者として現在に至る。フランスニースの音楽セミナーに参加、ディプロマを取得。文化庁在外研修員としてベルリンに留学。ベルリンフィルの A・ブラウ氏の下で研鑽を積む。これまでにソリストとして東京フィルハーモニー交響楽団との共演や、NHK 名曲アルバムでの録音、天皇皇后両陛下御前演奏、佐渡 裕率いる兵庫県芸術センター管弦楽団とも協奏曲で共演している。



オーボエ 佐竹 正史

1964 年山形県上山市生まれ。山形北高等学校音楽科、東京藝術大学器楽科卒業。吹奏楽（東京アカデミックウインドオーケストラ、ジャパンスーパーバンド）で活動を始め、1991 年東京フィルハーモニー交響楽団に入団。現在首席奏者。尚美学園大学非常勤講師。フィルハーモニーカンマーアンサンブルメンバー。オーボエを、故梅原美男 河野剛 小島葉子 齋藤勇二の各氏に師事する。



打楽器 加藤 恭子

東京音楽大学卒業、同研究科修了。菅原淳、野口力、有賀誠門、岡田真理子の諸氏に師事。その後フリー奏者として国立劇場の音楽公演をはじめ、内外の現代音楽祭に出演。方響奏者として中国国内でのレクチャーコンサート、NY、ワシントン DC での音楽祭に出演。読響、アンサンブル金沢、東フィル、日フィルの海外公演や海外オケの日本公演等に参加。「パーカッション・ミュージアム」「シンフォニエッタ静岡」のメンバーとしても活動している。

ほうきょう
(備考) 方響は中国の旋律を奏でることのできる伝統的打楽器。



打楽器 村居 勲

東京音楽大学卒業、同大学研究科修了。野口力、菅原淳、岡田真理子、藤本隆文の各氏に師事。卒業後は国際音楽祭やヨーロッパ、韓国での海外公演など様々な公演に出演。現在オーケストラや吹奏楽、室内楽、ミュージカルなど幅広いジャンルで活動をしている。シエナウインドオーケストラ、The Orchestra Japan 各打楽器奏者。第 46 回ミュンヘン国際音楽コンクール奨励賞。第 14 回日本打楽器協会新人演奏会最優秀賞。第 16 回日本管打楽器コンクール第 3 位。



ハーブ 宮原 真弓

東京生まれ。桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。在学中にオランダ国際ハーブウィークに参加・演奏。NHK・FM午後のリサイタル等に出演。現代音楽のグループ「アンサンブル・ムジカ・プラクティカ」のメンバーとして10年間活動ののち、1989年に東京フィルハーモニー交響楽団に入団。1991年オーストリア・ウィーンに留学。ウィーン国立音楽院ハーブクラスにてリサイタル開催。帰国後、東京フィルハーモニー交響楽団に復帰しモーツァルト「フルートとハープの為の協奏曲」を同団と共演。近年ではケルティック・ハープの演奏も手がけている。



チェロ 高麗 正史

福島市出身。東京藝術大学大学院修士課程修了。1997年アフィニス文化財団海外研修員としてオーストリアに留学。ウィーンフィルハーモニー管弦楽団首席奏者、フランツ・バルトロメイ氏に師事。東京フィルハーモニー交響楽団フォアシュペラーとしてのオーケストラ活動を軸に、室内楽、録音の分野で活動。また、東京シンフォニエッタメンバーとして、ベネズエラ「ア・テンポ音楽祭」、フランス「プレゾンス音楽祭」、エジプト「アレクサンドリアビエンナーレ」参加。佐藤修、金谷昌治、堀江泰氏、花崎薫の各氏に師事。



オルガン 中野 ひかり

東京藝術大学オルガン科卒業、同大学院修了。また大学院在学中から、フランスのトゥールーズをはじめヨーロッパ各地のオルガンアカデミーにて研鑽を積む。その後、リヨン国立高等音楽院にてジャン・ボワイエ氏に師事。同音楽院を最優秀の成績で卒業。帰国後は、サントリーホール、東京芸術劇場、東京カテドラル大聖堂など、日本各地のコンサートホールや教会などでのソロ活動の他、各オーケストラでのオルガンパート担当、合唱団等との共演活動を行っている。アクトシティ浜松副オルガニスト。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。

調布市民合唱団

Soprano

浅野 英子
荒井 尚子
市村 祐子
入部 志津子
織笠 洋子
工藤 弘子
高橋 愛子
武田 光子
竹村 恵子
鳥井 むつ子

中村 秀子
新阜 美恵子
村田 真理枝
山岸 康子
山内 弘子
横山 真紀
吉川 桃李

Alto

市川 項子
内山 啓子
小野 恵子
影山 昌子
神谷 こずえ
瓦林 紀子
木村 豊江
関 京子
竹内 由紀子
武川 圭子
辻木 洋子

寺西 由美
中富 允子
馬場 由紀子
吉永 靖子
渡辺 克子

Tenor

生田 周治
石渡 尚夫
泉 清之
岡野屋 正男
小室 滋
白岩 勝
高野 敦男
初貝 丈義
原 充也
本田 勉
宮内 恒夫

Bass

青木 健一
今村 信之
石倉 光一
伊藤 正昭
内山 協一
下村 光弘
荻原 敬治
葛西 敏昭
高橋 生郎
富永 昭
秦 茂樹
畑 佳一

40周年を迎えて

佐藤 宏

この合唱団とお付き合いは24年くらいになるでしょうか。約四半世紀を共にしました。と言っても長いなあという実感はありません。どちらかと言えばもうそんなに経ったの？という感じでしょうか。ただこの間に演奏会で取り上げてきた曲を眺めるときこの年月があって今があると思えます。以前も書きましたが初めて武満徹さんの「小さな空」を練習した時の皆さんの驚きの顔。三善晃さんの「五つの童画」を練習した時の戸惑いの顔等々、音のぶつかりがごく自然に捉えられるようになった今とても懐かしく感じられます。様々な曲に根気よくアタックしてきた皆さんの努力の証しを見る思いです。この先に何があるのか？それは誰にも分かりません。なるようになる、なるようにしかならない。大事なことは今を大切に生きることではないでしょうか。その中で新たな曲に出会えることもあるでしょう。再会することもあるでしょう。人生目いっぱい楽しんじゃいましょう。最後に私と共に歩んでいただいている音楽スタッフの平井さん清水さん安部さんに感謝感謝！もちろん出席率がよく歌う気満々の団員の皆さんにも感謝感謝！



挨拶

調布市民合唱団 団長 生田 周治

本日は調布市民合唱団第23回定期演奏会にお越しいただきありがとうございます。
調布市民合唱団は今年で創立40年という節目を迎えました。その間、様々な曲を歌ってきました。今回の演奏会のプログラムでもお分かりと思いますが、日本語の詞による合唱組曲あり、無伴奏合唱曲あり、アンサンブルをバックに歌う宗教曲あり、と多岐にわたっています。このことは、40年間変わることなく合唱の喜びを享受してきた団ならではの今の姿を、皆様に見て・聴いていただく絶好の機会になるのではないかと感慨を深くしております。

この演奏会を機に、40年の積み重ねを顧みるだけでなく、これから出会うであろう新しい曲たちとも手を携えて、更なる合唱の響きを多くの方々と楽しんでいけるよう歩みを進めてまいりたいと存じますので、応援のほどよろしくお願いいたします。



2018年7月 調布市民合唱団 REQUIEM の発音練習
於：調布市知的障害者援護施設「なごみ」地域交流センター

幼年連禱について

神谷 こそえ

高校生の時、校内合唱コンクールの課題曲が、「幼年連禱」3曲目「あこがれ」でした。コーラス部ではなかったので、クラス対抗の課題曲に選ぶ曲？って文句を言いつつ練習、歌えるようになってくると感想が変わり、歌詞もいいし曲も素敵！と歌うのが楽しみでした。社会人になり合唱を始め、再度「幼年連禱」と出会いました。吉原幸子さんの詩、その詩の感情を、新実徳英さんの音楽がより印象的に表現していて、合唱ってすごい！なんて素敵なんだろう！混声合唱って面白い！と興奮しました。でも、とても大人になったとは言えない頃、この音楽を本当は理解できてないのではないかと不安。もっと歌詞を音楽を理解できる大人になってから、もう一度歌ってみたい・・・。

そんな気持ちも心の奥底で忘れられていましたが、もう子供とは言えなくなった今、もう一度歌う機会が巡ってきました。いまの私は、吉原幸子さんの詩を、新実徳英さんの音楽を、少しは理解できるようになっているのでしょうか？

「幼年連禱」は、吉原幸子さんの詩に興味を持った新実徳英さんが、1977年に「花」を合唱曲として作曲、同年の笹川賞を受賞しています。それまで「抒情的な詩に抒情的な音楽をつけるなんてことはできない」と思っていたのを、受賞をきっかけに「やればできるのかな」と考えを改め、5曲からなる組曲を構想し、1980年に完成した作品です。のちに、新実さん自身が混声合唱であることを強く意識して作曲したと語っており、同声版は出版されていません。この作品は新実さんの出世作となり、若い世代を中心に人気作曲家となりました。以降、数多くの合唱曲を発表しており、幅広い世代から人気があります。調布市民合唱団では、過去に「花によせて」を演奏しています。

詞は、吉原幸子さんの詩集「幼年連禱」より「花」「不眠」「あこがれ」「熱」「喪失」。この詩集は、吉原さんが結婚・出産・離婚を経て、ふたたび歩き出すためにと、過去の清算として纏めた処女詩集で、室生犀星賞を受賞しています。出版されたときが32歳。この詩集は「こどものわたし」、翌年出版された第二詩集「夏の墓」が「をんなのわたし」との位置づけであったそうです。同詩集の「喪失ではなく」では、「大きくなって小さかったことの意味を知った時、わたしは「幼年」を再びもった」とあります。

のちに本人が「子どもであったときは知らなかった「幼年」を再体験していることに気がついた」と語っていることから、幼い日々の思い出・感覚を、大人になった自分の視点で、どこか客観的にとらえているように感じます。

《花》

満開のさくらの下、舞い落ちる花びら1枚1枚は、思い出の1シーンのよう。子どもの頃に作った花輪は、そんな思い出を集めて繋いでいたように思える。

やがて夕暮れ。桜の木の下、もう、花びらを繋ぐ子どもの姿はない。

《不眠》

カチカチ、カチカチ……。眠れない夜、普段は気にならない時計の音が響く。目を閉じて眠ろう！と思っても、瞼の裏では砂嵐の中を何かが通り過ぎて行くような映像。既に、夢を見ているのか、現実なのかもわからない……。でも、カチカチ……。時計の音は聞こえ続ける。

《あこがれ》

すきとほったものが好き。子どもの頃、透き通ったものは宝物だった。キラキラひかるビー玉、ゼリーのお菓子……。大人になったいま、あのキラキラした思いが欲しい。

《熱》

熱がある時、空気が重くのしかかってくるようで、熱を測ることも、薬を飲むことも、すべてがけだるい。どこか違ってみえる、いつもの世界。

《喪失》

小っちゃくなりたいよ！
いろんな出来事を経験し大人になった。決して、ただ幸せだったわけではない。
あんなに大人になりたかったのに……。もう、ビー玉をなくしても泣けない大人になって、小っちゃい頃が懐かしい。



この合唱組曲「幼年連禱」の巻頭には、「誰もが、一人ずつ異なる各々の《幼年》を持っています。この曲によって、日頃はすっかり忘れてしまっている一人一人の《幼年》に何らかの形で触れる、そんなことがあったらと願っています。」との新実さんの言葉があります。

きっと、わたしの《幼年》と、団員それぞれの《幼年》は違っていると思います。
でも、そんな色々な《幼年》を抱えた私たちの演奏が、みなさんの《幼年》に触れる機会となることを、切に願っています。

当合唱団のアカペラ曲演奏の歴史

石渡 尚夫

私が当合唱団に入団したのは、サラリーマンとしての第二の人生を卒業した1996年の事で、たまたま高校のクラス会が行われた際、恩師の先生にこれからの時間をどう過ごしたら良いかの悩みを相談したところ、合唱でもやってみたらとヒントを頂き、先生の妹さんが偶然にも当団の創立メンバーの一員であった事から、その方の紹介で入団した次第です。佐藤宏先生の指揮による定期演奏会には、必ずアカペラの曲が含まれていますが、本日演奏する10曲のアカペラ曲は、団員の好きな曲としてアンケートで選んだものです。

山田耕筰作曲・増田順平編曲の「**烏の番雀の番**」と「**この道**」は1996年6月くすのきホールで開催された第8回定期演奏会で演奏しました。「この道」はとても情緒に溢れた編曲で原曲の想いを伝えていますが、「烏の番雀の番」はとてもテンポの速い曲で、何度も歌ってもテンポに遅れそうで今も苦しんでいます。

次に当団にとり歴史のある曲は武満徹の名曲「**翼**」です。1997年6月くすのきホールで開催された第9回定期演奏会で演奏しました。この時、当団のアンコール曲の定番となっている「**小さな空**」も初めて演奏しています。武満のアカペラ曲はどれを取っても素晴らしい名曲ですが、とても難しく、苦勞しながら歌って来ました。中でも私の個人的に大好きな「**死んだ男の残したものは**」は所謂「反戦歌」ですが、戦争を体験した私達の年代の者には身につまされる想いの曲です。この曲は2006年11月に「平和への願いを込めて」との副題の下に調布市が主催した「平和記念コンサート」で演奏しました。

木下牧子作曲の「**ロマンチストの豚**」「**さびしいカシの木**」はいずれも歌い易い名曲で、2009年11月開催の第17回定期演奏会で演奏した「木下牧子アカペラ・コーラスセレクション」の中の2曲でした。「ロマンチストの豚」はとてもコミックな歌詞の中に哀愁も含めて居り、リズムカルな曲想に乗って楽しく歌えます。

林光の「日本抒情歌曲集」の歌は、2002年5月の神代植物公園バラフェスティバルで既に何曲か歌っている記録が残っていますが、今回歌う2曲は2017年4月開催の第22回定期演奏会で演奏された曲です。「**お菓子と娘**」はパリを描いた洒落た曲で、歌詞にフランス語が交じっています。「**荒城の月**」は土井晩翠の詩に滝廉太郎が作曲した原曲を、荘厳さを残して編曲した名曲と言えるでしょう。

三善晃の曲はこれまで「五つの童画」「嫁ぐ娘に」を取り上げています。「**せんせい**」と「**ピアノ**」は2015年5月開催の第21回定期演奏会で取り上げました。子供の詩による「小さな目」というアカペラ曲集に載せられています。2曲も、歌詞が子供らしくとても奔放で可愛らしいもので、短い曲ですがお楽しみ頂けると思います。

今回の演奏順とは異なりますが、私の感想も含め、当団のアカペラ演奏の歴史を紹介しました。

John Rutter REQUIEM

本田 勉

レクイエムはこれまでも定演で何回も取り上げており、振り返るとモーツァルト(20回)、フォーレ(10,18回)、デュリュフレ(12,16回)、ケルビーニ(9回)、そして私たちの指導者である佐藤宏(13回)を歌ってきました。佐藤先生のレクイエムは皆さんに聴いて頂く機会に恵まれません、隠れた名曲なのでもう一度定演で歌いたいと常々思っています。いきなり話が逸れてしまいましたが、調布市民合唱団が創立40周年を迎える今回取り組んだのはジョン・ラターのレクイエムです。ラター(1945～)は親しみやすいメロディと美しいハーモニーが曲の基調をなし、For the beauty of the earth, The Lord bless you and kiss you, All things bright and beautifulなどが世界中の合唱団で歌われているイギリスの人気作曲家です。わが合唱団でも21回の定演で好評を博したGloriaに続いて2度目の取組みとなっています。

ラターのレクイエムは1985年にダラスの教会でラター自身の指揮により初演されました。この時はオーケストラ版だったようですが、ラターのレクイエムにはオーケストラ版と室内アンサンブル版があり、今回お送りするのは室内アンサンブル版の方です。アンサンブルはフルート、オーボエ、ティンパニ、グロッケンスピール、ハープ、チェロとオルガンから成り、プログラムで紹介しているように今回日本の最高峰の方々をお招きしているので、アンサンブル演奏も存分にお楽しみ頂けると存じます。

ラターのレクイエムは7曲で構成されており、フォーレのレクイエムを思い起こす方がおられるかも知れません。それもその筈で、現在もっとも歌われているフォーレ・レクイエム1983版は、他ならぬラターが校訂し出版したもののなのです。

第1曲のREQUIEM AETERNAMは、ラターには珍しく重苦しい不協和音から始まりませんが、31小節目からは、平和で美しいメロディがテーマを奏で、まさしくラターの真骨頂と言えるでしょう。チェロのソロから始まる**第2曲のOUT OF THE DEEP**は旧約聖書の詩編130を歌っており、このレクイエムを特徴づける英語の歌詞となっています。英語の発音には苦勞させられましたが、その特訓の成果もお楽しみ頂ければと思っています。

第3曲のPIE JESUがまた美しいのです。Pie Jesuと言えば、ロイドウェーバーやフォーレの美しい曲が思い浮かぶ方が多いと思うのですが、ラターのPie Jesuもこれらの名曲と共に歌い継がれるのではないのでしょうか。しかもソロを歌うのは、調布市民合唱団のヴォイストレーナーを務めて頂いている我らの憧れ、平井香織さんです。曲の終わりにはソプラノソロが天へ上ってゆくかのごとく高音でうたい、聴くものを陶醉させます。

第4曲のSANCTUSはフーガ形式で天の栄光を盛り上げてゆきます。

第5曲のAGNUS DEI は一転して重苦しい雰囲気です。神の子羊に安息を祈ります。58小節からの不協和音が苦しみの中の祈りのピークとなり、72小節から後半のやすらぎへと向かいます。

第6曲のTHE LORD IS MY SHEPHERD も詩編23から採られた英語詩です。この曲は1976年に独立した賛歌として発表されていたものであり、ラターのレクイエムにおいて特徴的な彩りを添えています。

第7曲は LUX AETERNA でソプラノソロが天の光を歌い、そして第1曲のテーマが繰り返されて幸せで心地よいラストを迎えます。

かくして調布市民合唱団の新たな41年目のスタートとなりますが、もし今日の演奏が気に入られて、私も僕も一緒に歌ってみたいと思われた方がおられましたら、ぜひ練習の見学にいらして下さい。そのような方が現れるような素敵な演奏ができるよう、懸命に、そして楽しく歌いたいと思っています。



John Rutter

2. Out of the deep

第2曲 深き淵より

Out of the deep have I called unto thee, O Lord : Lord, hear my voice. O let thine ears consider well the voice of my complaint.	深き淵より、 わたしはあなたを呼ぶ、主よ、 主よ、わたしの声を聞き給え。 あなたの耳を傾けて わたしの訴えの声を聞き届けてください。
If thou, Lord, wilt be extreme to mark what is done amiss : O Lord, who may abide it ?	もしあなたが、主よ 過ちをことごとく心に留められるならば、 主よ、誰がそれに耐え得るでしょうか？
For there is mercy with thee : therefore shalt thou be fear'd. I look for the Lord : my soul doth wait for him, and in his word is my trust.	憐れみはあなたと共にあり、 それゆえあなたは畏れられる。 わたしは主を捜し求め、 わが魂は主を待ち望む。 主の御言葉がわたしの頼み。
my soul fleeeth unto the Lord : before the morning watch, I say, before the morning watch.	わが魂は主のもとに馳せゆく、 朝を待ちこがれる見張りのように、そう 朝を待ちこがれる見張りのように。
O Israel trust in the Lord, for with the Lord there is mercy : and with him is plenteous redemption. And he shall redeem Israel from all his sins, from all his sins.	おおイスラエルよ、主に依り頼め、 憐れみが主と共にあり、 豊かな あながい が主と共にあるのだから。 主はイスラエルを全ての罪からあながわれた、 全ての罪から。

5. Angus Dei

Man that is born of a woman
hath but a short time to live, and is full of misery.

He cometh up,
and is cut down like a flower;
he fleeth as it were a shadow.
In the midst of life, we are in death

of whom may we seek for succour? of whom?

I am the resurrection and the life, saith the Lord:
he that believeth in me,
though he were dead, yet shall he live: and who so ever liveth
and believeth in me shall never die,

6. The Lord is my shepherd

The Lord is my shepherd ;
therefore can I lack nothing.
He shall feed me in a green pasture,
and lead me forth beside the waters of comfort.

He shall convert me soul
and bring me forth in the paths of righteousness,
for his Name's sake,

Yea, though I walk thro' the valley of the shadow of death,
I will fear no evil ;
For thou art with me :
Thy rod and thy staff comfort me.

Thou shalt prepare a table for me
against them that trouble me :
Thou hast anointed my head with oil
and my cup shall be full.

But thy loving kind ness and mercy
shall follow me all the days of my life :
And I will dwell in the house of the Lord,
in the house of the Lord forever.

7. Lux aeterna

I heard a voice from haeven
saying unto me, Blessed,
Blessed are the dead who die in the Lord, for they rest,
from their labours.
They rest from their labours.
Even so saith the spirit, for they rest.

Lux aeterna luceat eis, Domine :
Cum sanctis tuis in aeternum,
quia pius es.

Requiem aeternam dona eis Domine,
et lux perpetua luceat eis:

第2曲 神の子羊

女から生まれたものは、
生きるに短い時を生き、しかも苦悩に満ちている。

現れたかと思えば、
花のように刈り取られる。
逃げ失せる様は影のよう。
生のただ中であっても、我らは死の内にある。

我らが求める助けは誰からくるのか 誰から？

わたしは復活であり命である、と主は言われる。
わたしを信じるものは
死んでも生きる、生きている者は誰であれ
わたしを信じているものは、決して死なない、

第6曲 主はわたしの羊飼い

主はわたしの羊飼い、
それゆえわたしは乏しいことが無い。
主はわたしを緑の野辺で養い、
憩いの水辺に導かれる。

主はわたしの魂を造りかえ、
正しい道にともなってください。
その御名のゆえに、

まことに、死の陰の谷を歩むとも、
わたしは邪悪を恐れない。
あなたがわたしと共におられるから、
あなたの杖と鞭がわたしを慰めるから。

あなたはわたしのために食卓を整えてくださる、
わたしに仇なすものたちの目の前で。
あなたはわたしの頭に油を塗り、
わたしの杯を満たされる。

あなたの愛と憐れみは
生涯わたしにつき従う。
そしてわたしは主の家に住まうでしょう、
主の家に、とこしえに。

第7曲 永遠の光で照らしたまえ

わたしは天よりの声を聞いた、
わたしにこう告げるのを「祝されよ
主において死んだものは祝されよ、彼らの憩いのために
労苦から解き放たれて。
彼らは労苦から解き放たれて憩う。」
『霊』はそのようにさえ言われる、「彼らは憩う」と。

とこしえの光で彼らを照らし給え、主よ。
あなたの聖人らとともにとこしえにいさせ給え、
あなたは慈しみ深い方であらせられますから。

とこしえの安息を彼らに与え給え、主よ、
絶えざる光で彼らを照らし給え。

指揮者に佐藤宏を迎えてからの

調布市民合唱団の演奏記録

1978年 3月	調布市民合唱団発足 発足から第6回定期演奏会まで、汐澤安彦（指揮者）、 菅野宏昭（バス歌手）、田中誠（テノール歌手）の指導を受ける。
1993年7月	指導者に佐藤宏を迎える
1995年 6月 第7回定期演奏会 ウィーンホール	パレストリーナ作曲「ミサプレヴィス」 高田三郎作曲「心の四季」 バーンスタイン作曲「West side Story」より
1996年 6月 第8回定期演奏会 くすのきホール	團伊玖磨作曲「川のほとりで」 山田耕筰作曲・増田純平編曲「からたちの花」 モーツァルト作曲「ミサプレヴィスト長調」
1997年 6月 第9回定期演奏会 くすのきホール	武満徹作曲「うた」より 小林秀雄作曲「落葉松」 ケルビーニ作曲「レクイエム」
1999年4月 20周年記念 第10回定期演奏会 くすのきホール	荻久保和明作曲「季節へのまなざし」 山田耕筰作曲・増田純平編曲「からたちの花」より フォーレ作曲「レクイエム」
2000年 6月 第11回定期演奏会 風のホール	パレストリーナ作曲「教皇マルチェッリのミサ」 三善晃作曲「五つの童画」より 源田俊一郎編曲「ふるさとの四季」
2001年10月 第12回定期演奏会 ウィーンホール	萩原英彦作曲「光る砂漠」 武満徹作曲「うた」より デュリュフレ作曲「レクイエム」
2003年7月 第13回定期演奏会 風のホール	林光編曲「日本抒情歌曲集」 三善晃作曲「五つの童画」 佐藤宏「レクイエム」
2005年6月 第14回定期演奏会 くすのきホール	三善晃作曲「嫁ぐ娘に」 ブーランク作曲「グローリア」 若松正司編曲「ディズニー合唱曲集」より
2006年10月 第15回定期演奏会 くすのきホール	林光編曲「日本抒情歌曲集」より タリス作曲「四声のミサ曲」 モーツァルト作曲「ミサプレヴィスト長調」
2008年5月 第16回定期演奏会 ウィーンホール	木下牧子作曲「方舟」 武満徹作曲「うた」より デュリュフレ作曲「レクイエム」
2009年11月 第17回定期演奏会 くすのきホール	バッハ作曲「ミサ曲ト短調 BWV 235」 木下牧子作曲「アカベラ・コーラスセレクション」より 新美徳秀作曲「花に寄せて」
2011年6月 第18回定期演奏会 くすのきホール	萩原英彦作曲「白い木馬」 武満徹作曲「うた」より フォーレ作曲「レクイエム」
2012年5月 第19回定期演奏会 くすのきホール	バッハ作曲「ミサ曲ト長調 BWV 236」 山田耕筰 増田順平編曲「からたちの花」より 源田俊一郎編曲「いつの日か」
2013年10月 第20回定期演奏会 グリーンホール	武満徹作曲「うた」より、さくら モーツァルト作曲「レクイエム」
2015年5月 第21回定期演奏会 くすのきホール	信長貴富作曲「等圧線」 三善晃作曲「小さな目」 ラター作曲「グローリア」
2017年4月 第22回定期演奏会 ウィーンホール	ボブ・チルコット作曲「A Little Jazz Mass」 林光編曲「日本抒情歌曲集」より 高田三郎作曲「水のいのち」

深大寺さんのご好意により、なんじゃもんじゃの花の下で歌わせていただくようになって、今年は10回目を迎えました。また、調布市の福祉まつりや福祉施設での演奏も重ねてきました。そこでは、演奏会での発表曲の他、したしみのある小品も歌ってきました。



2018年 深大寺のなんじゃもんじゃの樹の下で

なんじゃもんじゃ演奏会などでの 小品合唱曲

武満徹作曲	うた (さくら ○と△のうた 小さな空)
木下牧子作曲	アカペラ・コーラス・セレクション (おんがく ロマンチストの豚 さびしいカシの木)
三好晃 作曲	小さな目 (ピアノ やけど)
信長真富 作曲	等圧線 (リフレイン)
高田三郎作曲	水のいのち (雨 海より)
デイズニー	小さな世界 星に願いを
増田純平編曲	からたちの花 (この道 からたちの花 鳥の番雀の番)
林光編曲	日本抒情歌曲集 (早春譜 箱根八里 お菓子と娘 荒城の月 浜辺の歌)
源田俊一郎 編曲	ふるさとの四季 (春の小川 朧月夜 鯉のぼり われは海の子 村祭り 冬景色 雪 ふるさと)
源田俊一郎 編曲	いつの日か (シャボン玉 揺籃のうた 叱られて 七つの子 月の砂漠 みかんの花咲く丘 里の秋)
<hr/>	
信時潔作曲	いろはうた
菅野よう子作曲	花は咲く
佐藤宏作曲	ありがとう
磯部俊作曲	ふるさと (室生犀星作詩)
H.Werner作曲	野ばら
J.Arcadelt作曲	アベマリア
W.A.Mozart作曲	Ave verum corpus
Mendelssohn作曲	雲雀
S.Cardillo作曲	Coren grato
<hr/>	
日本の懐かしい歌	花の街(団伊玖磨) 花(滝廉太郎) 花のまわりで(大津三郎) 森の水車 青春サイクリング いつも何度でも(女声) 恋のフーガ(女声) 芭蕉布(女声) 竹田の子守唄(女声) ねむのぎの子守唄(女声) 春に(混声3部) 月の角笛(木下牧子・女声)
流行歌	北国の春 瀬戸の花嫁(女声)
日本民謡	斉太郎節(竹花秀昭) 最上川舟唄(清水脩) 牛追い唄(清水脩) どじょっこふなっこ(岡本敏明)
世界の民謡	エーデルワイス すみれの花咲くころ コンドルが飛んでいく アニー・ローリー シュワジュベチカ サンタルチア 赤いサラファン 鐘の音は単調に鳴る 花まつり サリマライズ(男声)

新入団員大歓迎

と一緒にうたいませんか。これから練習する新しい曲は …

10月20日 調布市音楽祭で演奏する曲目

- ジョン・ラター作詞・作曲 **「永遠の花」**（日本語の歌詞です）

Takako Helbig 訳詞

ジョン・ラターが、東日本大震災で大きな被害を受けた東北地方のために書き下ろした合唱曲です。日本の俳句のスタイルを意識して作ったという歌詞には、この災害のため遠くに去ってしまった人たちを「美しい花」にたとえて歌われています。

次回 第24回定期演奏会（日時未定）で演奏する曲目

- 別役 実 作詞 池辺晋一郎 作曲 **「六つの子守歌」**（風の子守歌より）

- **モンテヴェルディ「4声のミサ」**

Claudio Monteverudi 「Messa a quattro voci da cappella」

- 3ステージの予定ですが、もう1曲は未定です。



2017年12月 懇親会でのスナップ

練習日時：毎週日曜日午後6時半から

主な練習場所：たづくり9階研修室

連絡先：0422-45-7550 中村

<http://homepage2.nifty.com/chofuchor/index.htm/>



携帯カメラの
バーコードリーダーで
HPを読み取れます